

巻 頭 言

国立大学法人で情報処理センターが果たすべき役割 -

琉球大学総合情報処理センター長 高良富夫*

今年の 4 月から、国立大学は法人化され、「国立大学法人」がスタートしました。この変化は、国立大学が始まって以来の 100 年に一度の大変革だといわれています。

この大波の中で、各大学の情報処理センターも変わりつつあると思います。予算面では、運営交付金が文部科学省から各大学に配分され、これが大学内の各部局に配分されています。運営交付金の配分の仕方が各大学に任されていることから、大学当局はこれを踏襲し、まずは各部局に配分した予算の使い方も各部局に任せているようです。しかし、各部局では、その取り扱いに苦慮しているのではないのでしょうか。情報処理センター予算においても、レンタル予算が今年から額面上、センターに含まれているかと思えます。これにより「予算の 1%削減」が実質的にセンター運営費の 5%程度になるような不合理なことが起こっていないのでしょうか。また、これまで補正予算で整備してきた学内ネットワークも、いわゆる競争的資金で申請しなければなりません。情報基盤であるネットワークの整備が、学内外の予算獲得競争にさらされていていいものなののでしょうか。さらに大学の組織も大きく変更されてきているようです。情報処理センターの位置づけも、図書館や事務組織との統合など大きく動いているところが多いようです。

法人化され、各大学で中期目標・中期計画が策定されています。中期計画には、情報処理センター関連のものがどのように組み込まれているのでしょうか。教育研究の情報基盤を支える情報処理センター関連では、学内ネットワークの高速化と、どこでも使えるための無線 LAN の整備、学内の教育研究コンテンツの整備と流通、そしてこれらを利用した遠隔教育が各大学の中期計画に含まれているようです。また、法人化され、経理事務の方法が変更になったことから、経理情報システム的大幅な更新が各大学で進められているようです。さらに、これと並行して、ネットワークを通して授業登録をしたり、成績を送ったりするなどの教務情報システムの改革も行われているようです。このような状況の中で、セキュリティの確保など、情報処理センターの果たす役割は、ますます重要になってきています。

法人化のメリットは、これまでに比べて社会連携がしやすくなることといわれています。国立大学法人の目的の中に、大学のアイデンティティである「教育と研究」に加えて、「社会貢献」が掲げられています。その表記法からすると、大学の目的は、まず第 1 に教育であり、次いで研究、そして社会貢献ということになります。大学教員の就業時間の 1/3 を社会貢献に充ててもよいとも解釈できそうです。これは、大学のアイデンティティを「研究する教育機関」と考えてきた者にとっては、大きな意識改革を迫るものです。このような大きな変化の中で、情報処理センターが果たす役割、またこのようなメリットを生かす方法にはどのようなものがあるのでしょうか。情報処理センターにとって社会貢献とは、どのようなものなのでしょうか。大いに考えてアイデアを出していく必要があります。

この「学術情報処理研究」は、このような大きな時代の流れの中で、今後の情報処理センターの行くべき方向を考える上で有用な興味深い研究論文が多数掲載されており、お互いにアイデアを出し合うためにも重要な論文誌となっています。これらの研究がますます発展するとともに、各センターの発展に大きく貢献することを願っています。

* 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地 ttakara@cc.u-ryukyu.ac.jp